會社の現狀、帝國の現狀、生産の衰微等に關し再三、再四説明し、大部分の職工並に其家族が如何に苦しみつゝあるかを説き、彼等の生活が他工場の從業員に比し良好なる理由を述べ其反省を促すも、彼等代表者は一般從業員に對して更に會社の眞意を徹底的に率直に通ぜざるの風あるは誠に概嘆に堪へざる處なり。

故に工場係員より其家庭に於ての彼等の眞意を確めこれを綜合するに大部分は一日も早く就業したく、事こゝに斯かる事をなしては饑餓に瀕するのみ、等の窮狀を訴へて門を願ふ者益々多くなるに至れり。

茲に於て工場は之等大部分の就業希望者の爲め又町の爲め斷然本日より門して作業を開始する事とせり。

依て明三日午後十生、三庄西町其他に數十枚の左記掲示をなせり。

六月四日より就業を開始す

從業員各位!!

數日來從業員諸君の就業の申込を得るにつれたのは本工場

五日

もまして誠に喜ばしく思ふ處であります、それで平日通り就業を開始致しますから皆出勤致されたく、そして工場内に於ては充分秩序を保つて下さい。

大正十三年六月三日　　因島工場

從業員各位

右の掲示各所に表るゝや爭議團は極度に色めき立ち夜を徹して出勤職工防止の爲め東奔西走し、翌朝に至り狹き街路の要所々々を堅めて脅迫的言を弄し某々職工の如きは毆打されるに遂に工場の豫期に反し其日の入場者は十五名の職工と從來より入場つゝありし請負組百九十名なりき。

此日一大衝突あるやも計られずとて官憲に於ても萬一の用意ありしやに窺る。

本日午前十一時東京、大阪、京都、灘等より爭議應援として十一名来島し同夜直ちに彼等は爭議團各支部を訪ひ煽動的演説を試みたり。